

内閣総理大臣 菅 直人 様

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン
事務局長 佐藤 潤一

海藻類の放射性物質調査の実施と 漁業関係者への補償要請の申し入れ

福島第一原子力発電所から放射性物質が漏えいしてから2か月が経過しました。しかし、水産物に含まれる放射性物質の調査は、依然として十分に行われていません。特に、調査対象種や調査海域が限られており、漁業関係者や消費者を安心させるものとは言えない状況です。

国際環境 NGO グリーンピースは、放射能の影響が心配される海域で海藻類の調査を優先して行いました。福島第一原子力発電所から南約30kmから65kmの地点にある久ノ浜港、四倉港、江名港、勿来港でサンプリングされたものや、沖合を浮遊していた海藻から、1キログラムあたり10,000ベクレル以上の高濃度の放射性物質を検出しました。

近接県には、国内ワカメ生産量の約7割を占める一大産地があり、また、海藻類の収穫が来週にも始まろうとしている地域があることを考えると、海藻類の調査が十分に行われていない状況が続くことは、漁業復興の面でも食品安全の面でも問題であり、緊急に改善すべきと考え、グリーンピースは日本政府に、以下の3点を要請します。

記

1. 太平洋沿岸域における海藻類の放射性物質調査の実施と結果発表
2. 1の調査が終了し、漁業関係者や消費者の安全性が確認されるまでの間、海藻類収穫の一時中止
3. 海藻類収穫の一時中止により漁業関係者が受ける被害の全額補償

以上